

新卒採用でバンダイに入社し、26年になります。これまで主に事業部門で

女性管理職が語る

将来設計は公私切り離さず

人生の予定に子育てを得た地位は自分がやりた入れている人は、事前にいことを実現するための手段だと考えています。

ふじた・のりこ 1997年大学卒業、バンダイ入社。玩具の企画・開発・仕入れ業務を経て、2018年玩具企画開発部門のゼネラルマネージャー。20年4月より現職。

のは、公私を踏まえた人生設計の重要性です。人生は思うようにならないことが大切です。将来パトナーと子育てをしながら仕事を続けるには、何を身に付けておくべきか。子どもができれば、時間が限られます。子どもができる前、自身のキャリア形成に集中できる時間も貴重です。

の強みを持つ」ことを考えました。周囲の助言も聞き、企画職に生きる「プレゼン力と行動力」を磨くことにしました。特に重要なのは自分がどうありたいか、それをどう実現する道筋を公私を切り離さずに考えることで、これは男性にもぜひ考えてほしいと切に願います。結婚、子どもの誕生、キャリアアップなど、全ての選択肢は男性も通る可能性があります。今回は私がお伝えしたい

ト部 メン トマネ トマネ イクル ダダラ ンプロ ンゼ

藤田 訓子氏



「この会社の女性社員には人生の戦略がない」仕事に一生懸命なのは分かるが、プライベートも含めて自分の人生を具体的にどう実現しているか、ばよいと考えているか、その戦略が見えてこないということでした。衝撃でした。私の人生

設計は当時、漠然と「子供は欲しい。できれば企画職は続けたい」と考えている程度でした。人生の戦略と聞いても頭の中には具体的なイメージが湧いてきません。しかし、この言葉を機に、自分に何が必要なのかを模索し始めました。

まず考えたのが「産後、業務時間が制限される中で企画職を続けるにはどうすればいいのかわかるか」ということです。そこで、企画提案から商品納品までを一人で回せるスキルを

身に付けることにしました。関連業務を一通り遂行できる力があれば、短時間勤務の中でも様々な形で貢献することが

できるからです。次に「短時間勤務に必要な」とも必要とされる自分

また、出世を目標にする方がいますが、個人的管理職の先輩方に心から感謝しています。